

学校名	小中一貫校南アルプス市立 白根御勅使中学校	教科等	各教科・領域等における探究 総合的な学習の時間
研究主題	「自ら学び 互いに高めあう 心豊かな生徒の育成」 ～子供主体の探究的な授業実践の積み重ねを通して～		

## 1. 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ① 学びの前提

- ・ 研究デザイン図の作成・検討・共有
- ・ 授業形式の統一（学びの作法の視点、男女市松模様の座席配置）

#### ② 学びの実践

- ・ 理論研究（子供主体の授業づくり、探究的な学びの学習過程）
- ・ 授業デザインシートの活用
- ・ 総合的な学習の時間の教育課程の見直し
- ・ 探究の時間の位置付け（MIDAI QUEST）

#### ③ 学びの検証

- ・ OPP（※）を活用した定期的な振り返り
- ・ 授業研究会の実施



※One Paper Portfolio

### (2) 具体的な研究活動

#### ① 探究の時間の設定（MIDAI QUEST）

週に1回から2回、朝の10分間に、教科・領域等にとらわれず、生徒一人ひとりが、自分の課題を設定し、解決を目指す探究的な学びの時間を全校体制で位置付けた。令和7年度は、本校の地域性、小学校での学習を踏まえ、共有テーマとして「水」を位置付けた。課題設定や情報収集、整理分析の場面では、スプレッドシートやスライドを使用した。その際に Google Classroom を活用することで、全学年・全クラスの進捗状況を自由に他者参照できるデジタル学習環境を整えた。同時に、生徒玄関付近に生徒の進捗状況を掲示したアナログ学習環境も整えることで、生徒一人ひとりが学習方法を選択できる状況をつくりだした。また、図書室と連携し、必要な文献を「新規アイテム」として紹介し、情報収集についてもデジタルとアナログを選択できるようにした。

【探究を進める上での支援カード】※生徒とはデジタルとアナログで共有



#### ② 各教科・領域等における探究的な学習過程の位置付け

全職員での「探究的な学びについてのイメージの共有」「各教科・領域等での学習過程の位置付けの事例の共有」を目指し、指導主事を招聘し、学習会を実施した。また、学習会後も本校の校内研究に伴走支援していただき、継続的な指導をいただいた。それらの学びを踏まえ、各教科・領域等において探究的な学習過程を位置付けた実践を試みた。探究的な学びを実現していくためには、1単位時間ではなく、単元等のまとまりでの授業デザインが必要であることを再確認し、授業デザインシートを作成した上で、各自の実践を進めた。また、教師も生徒も「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究的な学習の過程を意識できるよう、全教室に掲示カードを設置し、4つの学習過程を可視化することとした。

【教室掲示カード】

課題設定

情報収集

整理・分析

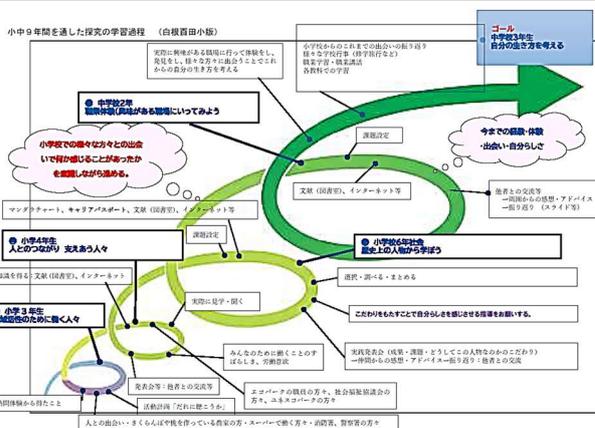
まとめ・表現

### ③ 総合的な学習の時間の見直し

学校教育における探究的な学びの核となる総合的な学習の時間について、全学年で年間計画を見直した。全く新しい取組を構築するというのではなく、現行の取組を生かしながら、汎用性のある探究的な授業デザインを目指した。そこで、行事を目的とするのではなく、学習課題を検証する時間と位置付け、探究的な学習過程が繰り返されるよう意識した。

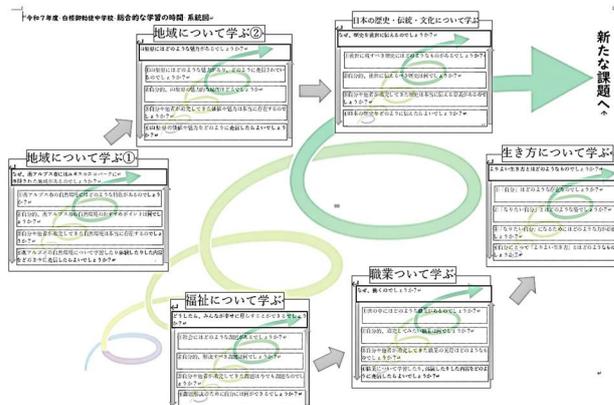
具体的には、「ウェビングを用いた授業デザインの検討」「探究的な学びのスパイラルの可視化」「問いの位置付け」ということを大切にしながら全校体制で検討を重ねた。また、校務 DX の推進により効率的に検討を進めることもできた。さらに、小中連携の視点から、小学校とのつながり、中学校3年間の中でのつながりなど、系統性も意識し、系統図の作成を試みた。

【探究的な学びのスパイラルの可視化】※各単元、小中連携、中学校3年間



【複数学年に渡る長期的な単元計画】

小中連携	ねらい・学習活動	知 思 態	目標のポイント等	実施年
歴史・文化を伝える意義について考える	小単元1の学習課題「なぜ、歴史を後世に伝えるのだろうか？」 「なぜ、山形県出身の人が沖縄についての歌を歌っているのだろうか？」(日本はどんな国とどうある日本は外国からどのようなイメージをもたれているのだろうか?)という問いから小単元1の学習課題を設定する。 ※スライドを活用した文化財、世界遺産調べ	①	・問いを投げかけ、学習課題設定のきっかけとする。 ・様々な視点からの後世に伝えたい日本文化ランキングを調べることを通じて、京都に関連する事象が思い起こされ、 ・世界遺産について調べることを通じて、広域に関連して「島の遺産」があることに気付く。	2
	・単元の学習課題を解決するために必要な情報について整理し、集約の基礎をもち、 ※スプレッドシートを活用した学習課題に対する自分の考えの蓄積	②	・課題の解決のための適切な情報の収集ができるように、課題の解決に必要な情報を考えさせたり、適切な情報を収集する手段を選択させたりする。	2
	・京都、広島県の歴史に関する情報を収集する。 ・課題を解決するために、収集した情報を整理・分析する。 ※デジタルホワイトボードを活用した情報収集及び整理分析	③	・課題の解決のための適切な情報の収集ができるように、課題の解決に必要な情報を考えさせたり、共通編集機能を用いて整理・分析させる。	2
	・発表会で、課題の解決を通して考えたことや感じたことを発表する。 ・課題について意見交換をする。 ・発表に対する指摘や疑問を整理し、今後の活動の見直しをもつ。 ※デジタルホワイトボード活用した説明物作成	④	・考えを発表したり、やり取りしたりすることによって、歴史や伝統文化を後世に残す意義について自分自身の考えをもてるように指導する。	2
伝えたい歴史・文化について考える	小単元2の学習課題「自分の、後世に伝えるべき歴史は?」 ・小単元1を読み、後世に伝えるべき歴史に関連する個人課題を設定する。 小単元1で作成したデジタルボードを活用 ※スプレッドシートを活用した他者参照	①	・京都、広島県の歴史について振り返ることを通じて個人課題を考えさせたりする。	2
	・自分の課題を解決するために必要な情報は何かをまとめる。 ※スプレッドシートを活用した他者参照	② ③	・課題の解決のための適切な情報の収集ができるように、課題の解決に必要な情報を考えさせたり、適切な情報を収集する手段を選択させたりする。	2
	・情報を収集する。 ・課題を解決するために、収集した情報を整理・分析する。 ※スライドを活用したワードマッシュコメント	③	・課題の解決のための適切な情報の収集ができるように指導する。 ・他者参照ができるように共通編集機能を用いて個人課題の持つ意味を深めるようにする。	2



## 2. 研究の成果と課題 (○成果 ▲課題)

### ① 探究の時間の設定 MIDAI QUEST

- 評価のためではなく、自分の興味関心を追究し始める生徒の姿が見られた。
- 生徒の探究の過程を見取ることによって教師の授業改善への意識が向上した。
- ▲探究のサイクルの回数を増やすための工夫が必要である。
- ▲探究の成果を発信する場を更に整え、学びの共有・深化につなげる必要がある。

### ② 各教科・領域等における探究的な学習の過程の位置付け

- 探究的な学びや子供主体の授業実践のイメージの共有が進んだ。
- 単元等のまとまりで授業をデザインすることの意識化が図られた。
- ▲情報収集の場面における教師の指導性が求められる。
- ▲生徒の整理・分析の質の向上のために、教師の具体的な指導の工夫が必要である。

### ③ 総合的な学習の時間の見直し

- 生徒及び教師が探究的な学習の過程を意識しながら学習を進められるようになった。
- 小中連携、中学校3年間等の系統性が可視化され、学びのつながりを捉えやすくなった。
- ▲弾力的な単元計画の変更への対応が難しい場面がある。
- ▲小中学校間での学習内容のさらなる相互理解が必要である。